



氏名
伊藤 恵里奈
所属 附属幼稚園
職名 教諭

産休・育休取得期間
約2年6ヶ月
(2018.9-2021.3)

出産
2018.10 (第1子)

職場環境の温かさを実感した妊娠・子育て

【産休・育休に入るまで】

なかなか子どもが授からず悩んでいた時、職場の養教の先生に不妊治療の話をお聞きしました。治療を進めるにあたり、継続的、また不定期にお休みをいただかなければいけないことを考え、治療を行いたいことを、まずは園長先生と教頭先生に相談しました。「教諭である前に、一人の人間として自分の人生のことを一番に考えていいよ」という、心強くもありがたいお言葉をいただき、治療を進めることにしました。不定期に急な休みをいただかなければならない状況が続きましたが、休みをいただく時には私が抜けても大丈夫なような体制を常に整えていただき、治療を進めることができました。職場のこのような協力的なバックアップのもと、数年間に渡る治療に取り組みことができ、お陰様で妊娠することができました。3月中旬だったこともあり、妊娠がわかるとすぐに園長先生に報告し、次年度の勤務体制や産休・育休に入ってからからの体制についてもすぐに対応していただきありがとうございました。幼稚園勤務ということもあり、まだ9週目でしたが、4月に入るとすぐに、園長先生より学級の保護者と子どもに妊娠のことを伝えていただき、身体面、精神面で様々なサポートをいただくことができました。また、保育中においても、重い物を持ったり、長時間に渡る外での活動は行わなくてもいいよう配慮していただいたりしていました。私は、つわりがほとんどなかったため、産休に入るまで保育に入ることができました。このように、仕事をしながらも元気な妊婦生活を送れたのは、細やかに様々なサポートをしてくださった職場の皆様のおかげと感謝しかありません。

【産休・育休に入ってから】

産休に入る前は、念願の子どもを授かったので、2年間はゆっくり育休を取らせていただきたいと考えていました。しかし、市役所へ行き、いざ保活を始めてみると、10月から保育園に入るにはかなり狭き門であることがわかりました。そこで、園長先生に保育園に入園しやすい4月から復帰したいため、育休期間を延長することが可能か相談しました。すると、1度だけなら時期を変更することが可能であることを教えていただき、4月復帰に変更させていただくことにしました。この変更にも快く対応していただいた職場環境にも感謝の気持ちでいっぱいでした。その後、できるだけ子どもを育てるのに保育環境がいいと思う園、また復帰してから送迎などがスムーズにできる園という要望に応えられる保育園を探すため、様々な支援センターに通ったり、他のママ達からの情報を得たりしながら保活を進めていきました。また、職場復帰するにあたり、主人と相談をしながら、朝の生活リズムの見直しを図ったり、子どもの病気等で急なお迎えが必要な場合の対応のためカレンダーを共有したりもしました。そして、無事に、実家近くの希望の保育園に通えることが決定し、3月中旬から慣らし保育をしてもらうことが可能となりました。また、職場復帰に向けて、睡眠時間を確保するために、子どもが夜通し寝られるようにするなど、職場復帰してからの懸念事項をなるべく減らせるよう準備をしてきました。

【産休・育休が明けて】

いざ、保育園通園が始まると、やはり様々な感染症や風邪などの病気にかかってしまい、急なお迎えが入ったり、発熱による保育園欠席により職場を休まざるを得ない状況が出てきたりしました。主人の職場でも、上司や同僚の理解を得ることができており、急な休みでも対応いただけるよう配慮していただいていたので、両親のどちらが休むか、または実家の母親にお願いするかなどしながら何とか対応することができていました。また、保育園の病欠に誰も対応できない時のために、市の病児・病後児保育にも登録をしておきました。ただ、ありがたいことに、今のところはこのシステムを利用することなく働くことができています。

【最後にひとこと】

いつも支えてくださる職場の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。一人一人の背景に応じた温かい配慮をしていただける環境で働かせていただくことで、職場、家庭の両方での充実につながると感じた妊娠、出産の経験となりました。子育てもはじまったばかりで、まだまだ未熟な私ですが、自分が職場の皆様にしていただいたように、他の方も働きやすい職場になるよう努めていきたいと考えています。